

第3回北総里山タウンミーティング記録

北総里山クラブ

日 時 2007年12月9日(日) 午前10時~12時
場 所 白井市桜台センター・レクリエーションホール



司会 丹沢さん

1 開会の挨拶 ケビン・ショート氏



千葉ニュータウンは電車では一時間で都心と繋がり、都市的なアメニティが充実している。都市的なアメニティと身近に里山の自然があることが千葉ニュータウンの魅力だ。これらの里山自然は偶然に残ってきたもので、農家が保全してきた。(偶然に残ってきたものだから) 消え去る心配がある。私達がいまの生活をこれからも楽しみたいなら、里山自然の保存を真剣に考える時だ。

専門家やいろいろな人たちの意見を入れて、守っていくコンセンサスをつくっていきたい。

2 今回のあつまりについて・スライド 長谷川 雅美 氏





千葉ニュータウンは、古くからの里に囲まれた街



**タウンミーティング
里山に囲まれたまちをめざして**

北総の里山物語

千葉ニュータウンは、首都圏の住宅事情を解消し、北総地域に30万規模の都市を作る計画でした。しかし、計画は思惑通りに進まず、変更と縮小を余儀なくされ、農地と山林がニュータウンの中にモザイク状に残される緑豊かな街並みができあがりしました。

この姿を目にすると、始めから緑の豊かさを売り物にして設計された街であると思われがちですが、この緑の豊かさは将来にわたって保障されたものではありません。ニュータウンの都市計画は、さまざまな時代背景や人々の想いの中で紆余曲折を経てきたのです。

企業庁の用地は北総の花畑。私たちが守りたい場所

北総地域の特徴的課題

千葉ニュータウン計画の破綻と見直しの欠如が無計画（近視眼的）な土地の放出をもたらす

都市に隣接した農地経営の不安定さは、乱開発に拍車をかける

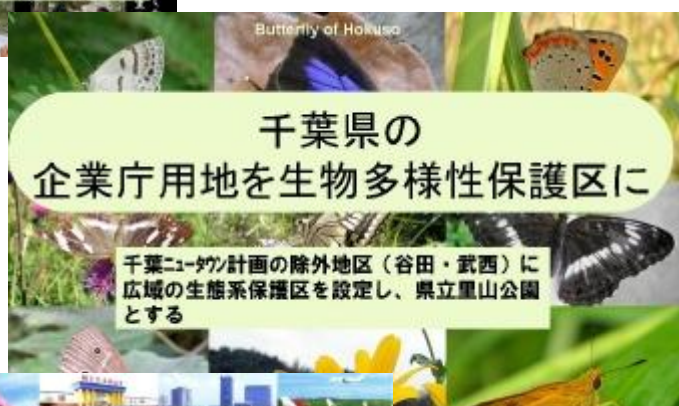
里山に咲き誇る、野の花

里山の危機

緑豊かな田園に囲まれたこのまちをふる里としてすみ続けたいと思うならば、私たち自身が昔からこの地域に住んでいる人たちと話し合っ、まちの未来を決めていかなければなりません。そうでなければ、無秩序な乱開発を許し、自然を台無しにしたまちにしてしまいます。今、私たちはそんな時代の分岐点に差し掛かっているのです。

生物多様性保全の地域戦略

地道な調査と議論を重ね、このすばらしい自然を次世代に引き継ぐことが、里山を生かしたまちをつくる上で、欠かせない活動であることを確認しました。



3 講演

関 健志 氏 (日本生態系保護協会事務局長)

なぜ生物多様性か
持続可能なまちづくり
企業の社会的責任と環境

(これまで日本では) 環境問題について意見は出てくるが、それを制度化することはおろそかになっていた。日本生態系保護協会は、フィールド活動をする人と共に、政策提言を考える人たちが集まり3年かけて、1992年に設立したNGOである。

会員は100名弱。

いまや、環境問題は国の政策となり、大きな問題である。

1997年(平成9年)、当時の橋本内閣が「行政改革」を打ち出した。戦後の経済的繁栄が同時に膨大な財政赤字も残したとし、「行革」への取り組みがなければ、21世紀日本の明るい展望は見出せないと訴えた。

この年、環境省はレポート「環境革命」を発表、2000年(平成12年)には、「文明と環境に関する提言」を発表した。

問題は環境という物差しだけでは解決しない。持続可能なまちづくりには、経済と結びつけるテクニックが必要になる。

九州でサワガニの生殖異常が報じられたように、訳がわからないが何か異変がおきていることは専門家が感じている。このような現象を評論家風に論じていけばよいというものではない。次世代へ何を提供していくのかを考えることが必要だ。

養老孟司氏はかつてこのように述べている。「国策とすべきは環境問題だ。環境問題こそ最大の政治問題。それに比べたら、その他のことは雑学だ。戦争すら雑学に過ぎない。」

2000年に土砂災害防止法が制定された。簡単に言えば、土砂災害の危険地域に人を住まわせないものだが、しかし、私有地であるので、難しい問題だ。このように、環境問題は難しい。

国土交通省白書によれば、2025年には建設資産の100パーセントをもってしても、過去に建設したインフラの維持管理で精一杯だという。建築物は完成と同時に維持管理を必要とするもの。財政厳しい時代にあつて、大切なことは公共事業の選択と集中だ。

日本人の生活を考えてみよう。

稲作は果たして環境に良いのか。

オオカミを絶滅させたことで、結果的に、シカを駆除することになる。オオタカのいなくなるような都市計画がカラスを増やす。生物資源のバランスが崩れたために、環境の破壊が起こる。



環境問題はごみと資源の問題でもある。日本はマテリアルとして年間約 7 億トン輸入して、約 1 億トンを輸出している。差し引き 6 億トンが国内に溜まる。



生態ピラミッド

生態系とは、野生動物、土壌、水、大気、太陽の 5 つの要素が有機的関係を保つことにより構成された自然のシステム。生態ピラミッドとは、食物連鎖において、各段階の生物が段階が高いほどその量が少ないので、ピラミッドのような形に見えることを言う。生産者から、順次、より上の段階の生物を育てていくが、高次消費者もまた、生産者の段階へ還元され、土となる。

生産者……………草の根

第一次消費者…昆虫

第二次消費者…小鳥

高次消費者……ワシ、タカ、サシバ、フクロウ

緑を守るということは土を守ること。どこを利用し、どこを保全するかという土地利用計画が大切だ。絶滅したものを復元することは非常に大変だ。ドイツでは、どこにどう自然を復元するかということをやっている。

農業、林業は果たして自然に良いのか。農業は木を伐採して同じ作物を作る。水田は湿地の葦を刈りとって、作られてきた。

日本では、レッドデータブックに掲載されている絶滅危惧種の数が多い。それだけ、危機的状況にあるということだ。また、県単位ではレッドデータをとっているが、市町村ではしていない。ヨーロッパでは、生物も財産と考えるから、市町村単位でもとっている。

米も味が良いだけでなく、環境にやさしい品種に改良することが求められている。品種改良はどんな作物でも、その原種から改良することだ。

表土の 1 c m を作るのに 100 年から 400 年かかる。10 c m 作るには何千年もかかる。樹木があつてこそ、文明が育つ。現在は水が少ない地帯あるいは砂漠地帯であるところでも、古代文明が栄えた時代には、樹木が茂っていたことは調査で証明されている。

こども時代には、生物を殺すようなことをしたとしても、自然の中で感性を育てられ

ていくことが必要だ。不登校の子ども達が自然とのふれあいの中で人間性を取り戻していった例は多い。

錦鯉の泳ぐ川、外来種の花がきれいに開く公園は自然といえるか。自然はその地域の植栽によってこそ生かされるのだ。

農業について言えば、労働生産性を上げるために農地を土地改良して来た。昔の農業は太陽で作物を育てていた。しかし、現在では、莫大なエネルギー、石油、化学肥料が投じられている。近年の農産物、例えば、ほうれん草でもビタミンC、カロチンが減少しているとの報告がある。

現在、日本では、都市計画で農地を減少させ、一方では、有明湾の開拓のように農地を増やしている。ヨーロッパでは、農地を自然に戻し、都市の中に緑を戻そうとしている。農地をつなぎ、国土保全することに税金が使われている。

アメリカでは、1985年に農業基本政策を改正し、農地を自然に戻している。アスハルトを剥がし、ビオトープを設け、本来の自然に戻そうとしている。このように、アメリカでも、ヨーロッパでも、21世紀は、税金を投入して自然を取り戻す時代だと考えている。

生物多様性を守るためにどういう制度をつくりお金を廻していくか。ボランティアでは無理なことだ。

企業のことを言えば、アメリカのIBMなどは企業の社会的責任として、環境問題に取り組み、自然環境のための事業をしている。このように生物多様性の考え方が浸透してきている。

今後、注目すべきは、2010年に予定されている名古屋市で開催されるCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）であり、目標としては、ここに行政、企業を取り込んでいくことだ。

質疑応答



Q COP10について詳しく教えてほしい。

A 1992年6月リオ・デ・ジャネイロで地球サミット（国連環境開発会議）が開催され、生物多様性条約が調印された。

1993年 日本も同条約を締結。

2002年 持続可能な開発に関するヨハネスブルグ（南アフリカ）サミットが開催された。

国内では、

1995年 生物多様性国家戦略を策定。

2002年 見直しを図る。

2007年 第三次生物多様性国家戦略閣議決定される。

環境のために世界中の国が結束していく必要がある。

2010年に名古屋万博の会場であったところでC O P 10が開催される予定で、行政、企業、N G O等が参加する。

企業の役割として、自然環境問題に取り組む企業が増えている。本来の自然環境というものを理解していないと思われる例もあるが。例えば、住友信託銀行は自然環境に積極的な企業に融資する等の方針を出している。

12月13日から、有明の東京ビックサイトで環境展も開催される。

Q 農業の後継者がなく、田畑が耕されないままに荒廃していくのは、悲しいことと思っていたが、生物多様性からいうと本来の自然が戻ってくるので、良いことと考えていいのか。

A 大きなテーマだ。日本の自然は原生林だった。里山は人間がつくってきた。どこに原生林を残すか、どこに田を作るか、設計図を作ることが大切。棚田というと自然と思われるが、棚田はもともと山を自然破壊してできたもの。何を目指すかを明らかにさせること。原始風景を残すなら原始生物を戻せないか。農地を農地として戻すだけで良いのか。次のステップは必ずある。

長谷川先生

経済の長期視点に立ったまちづくりを目指し、限られた財源をどこに投入するかを考えたい。

地域の将来のイメージをどう持つか。税金を投じて基盤整備をしていくことになる。国や国際的レベルで考える人、地元で根付いて仕事をする人が一緒になって、地域の将来を考えようとするとき、関さんのお話は示唆に富んでいると思う。

この地域がどうあるべきかを考えるのは私達だ。

例えば、印旛沼水循環会議は、県がお金を出しているが、生物多様性にどう取り組めばよいかという基盤材料を持っている。だが、県も地元もそれを生かしきれないでいる。現在、私達はパーツしかできていないが、今後、多方面の意見を聞き、学習しながらやっていきたい。

関さん、ケビンさんの啓蒙や刺激をいただきたい。多くの市民団体が手をつないでいる現状に希望を持っている。

丹沢さん

関先生のお話を踏まえて、私達も一緒にやっていきたい。午後は、皆さんを秘密のスポットにご案内します。

第3回北総里山タウンミーティング後半

12:40～15:00

4 谷田の里山ぶらり散歩とおしゃべり会・参加者のアンケートとご感想

- 「里山と暮らす」 里山で暮らすということをテーマにしたグループ
- 「里山と遊ぶ」 里山を楽しむということをテーマにしたグループ
- 「里山を守る」 里山の生きものを守るということをテーマにしたグループ



《里山と暮らす》（参加20名）

① 谷田・武西の現状とこれまでの経緯。何が一番印象に残りましたか。

【里山自然のすばらしさについて】

- ・人があまり入り込んでいない自然本来のすばらしさ。「木々のささやき」と「こもれび」に感動した。
- ・広範囲に自然が残っていて、貴重な場所だと認識させられた。
- ・沢山の泉があること。（3）小鳥たちによい。
- ・牧草地があったこと。
- ・牧場のおいしい牛乳をごちそうさまでした。子ども達に残してほしい。
- ・すぐ近くにこのように変化に富んだ里山が残っているとは思わなかった。説明を聞いて、自分で歩いているだけでは気付かなかったこと新しいことがわかった。

【開発との関係について】

- ・桜台の開発と泉の水量の減少が関連しているらしいということ。谷田・武西の自然環境の変化を知っておくことが大切。
- ・かつては泉を利用した米づくりが行われていた地域だったということ。

- ・人が自然を改変したために水量が少なくなっている。水は命の根源だから、守る施策が必要。
- ・企業庁用地の活用（維持管理）。
- ・開発がとまったことで残された環境を残すことが大切だ。
- ・周辺に集落がないのに、飯綱権現があること。
- ・人間が林を利用している気がしなかった。
- ・土地の権利をめぐる話がおもしろかった。

【その他】

- ・里山と暮らす人とそうでない人の考え方の相違が気になる。それは里山に暮らす人の生活と深いつながりがある。現状の里山の暮らしと農業では、生計を維持することが極めて困難。将来、里山の消滅が拡大し、都市一極集中が進むのではないか。
- ・ゴルフを楽しむ人が多い。だからよいかどうかわからない。人が住むところが里山だと思う。



② 里山の恵みにはどんなことがあるでしょう。どんな里山を望みますか。

【里山の恵み】

- ・四季おりおりの景色の変化、空気のおいしさと静寂
- ・地元の人から昔の話（どんな自然、里山だったか、自然との関わり方）を聞くと、その里山の昔の時間に触れることができる。
- ・里山の中を歩くだけで、ひとそれぞれ、多く恵みに気付くことができる。
- ・ハイキングなどの自然とふれあい、いやされる。（2）
- ・生物も大切だが、人間を大切にする里山環境を大切にすることが必要だ。自然を守るためのスムーズな流れをつくるには、地元の歴史、民俗、自然をきくこと、昔の潜在的な植生生活を上手に利用することが大切だ。
- ・地場の野菜を手に入れることによって、顔の見える関係が築かれる。安全な食料を考えると、地産地消が大切。

問題点

- ・今の里山が、多くの人を受け入れることができるかどうか問題だ。
- ・安全な食料を願うことはむずかしいかもしれない。

【どんな谷田、里山を望むか】

- ・ハンノキのところは池にすべき。自然散策路にする。
 - ・牧場は、県または市が経営し、牧場を残せるようにする。少なくともゴルフ場よりよい。その場合、経済価値の課題が大きい。
 - ・ニュータウンだけでは、里山はなりたたない。農業との共存が大切。
 - ・これ以上、人の手が加わらない、現状維持を望む。(2)
 - ・牧場は貴重な場所だ。今の時代、近くに里山(広い場所=においなど苦情がでないという意味か?)があるからこそ存続できている。もうやめてしまうと聞いて、残念だ。
 - ・人間の営みを存続させたい。水源を利用して谷津田を元にもどし、農業をする。
 - ・トイレを設置して、遊歩道を整備するなど、草深の森のような管理をして、この地域を守ってくれるよう望む。ウォーキングコース、ドッグランなどできれば、多くの人が利用する。
- (メールによる回答)
- ・里山保全ではなく、貴重な生態系を守るための保全地区として、位置づけるべき。

③ 里山と暮らすために、あなたにできることはなんでしょう。

【わたしにできること】

- ・常に自然の保護を心に留め置き、どんな小さなことでも自分にできることを実行する。
- ・谷田、武西の自然環境の変換を知っていくことが大切。
- ・農産物を買う。
- ・内藤牧場の牛乳を買うこと。
- ・自然破壊をしない。



【こうしてほしい。こうやったらいい】

- ・行政と地権者、市民が協働して、樹林地保護のシステムづくりが必要。善意だけでは守れない。関心を持つ人々の努力とともに、公共機関をなんらかの形で動かす必要がある。
- ・なぜ、この自然環境ができたのか、まずは学び、それを伝えることが必要。
- ・里山に暮らしてきた人々がいるということや、そのような人達によって里山が意地されてきたということを意識すること。
- ・自然林の中に、禁止されているゴルフ練習場があったが、企業庁が見回るなどの管理をきちんとやるよう促す。
- ・今日の会のように、地域の人達が気軽に入れるような状態が作れるといい。
- ・所有者(農業者)が主体となるべきだ。
- ・里山のよさを知って、PRする。里山に関心を持つ、意識付けることが大切。(4)
- ・いろいろな立場の人がいるので、それぞれを理解することが大切。
- ・人のために作られた里山という意識を持って、自然と共存することが必要。

- ・廃棄ごみをなんとかできないか。
(メールでの回答)
- ・野菜などの直売所マップを作る。

その他、ご意見などございましたら、ご記入ください。(裏面もご利用ください。)

- ・もっと多くの地点で説明をしてもらいたかった。
- ・内藤牧場の話をもっと聞きたかった。
- ・経済と利便性を考えると開発するのは……。次の世代の子ども達に何を残し、どうつなげていったらよいだろうか。自分も市民活動を行っているが、自然の価値をどのように位置づけていったらよいか、苦戦している。
- ・このような機会があればまた参加したい。天候にも恵まれよかった。
- ・木があって水源があり田んぼや植物があって、人間が生きている。生活の半分は林だということを忘れてはならない。
- ・里山の恵みとして、おいしい野菜がいただきました。
- ・これからをになう子どものために大切だ。
(メールによる回答)
- ・関先生のお話大変面白く受け止めました。自然の保護とか生物多様性について考えを新たにしました。この議論をするときは里山という言葉はなじまないと思いました。大いに議論をすべきと思います。

《里山で遊ぶ》

■現状認識

- ・ゴミの不法投棄が多い
- ・ごみ対策として、利用する場合届出してもらおう
- ・ゴミ拾いをする
- ・自然観察やパトロールを定期的に行う
- ・自然環境の調査をしながら、動植物の動きを定期的に追っていく
- ・ゴミを処理する費用がかかる→お金を生む仕掛けが必要
- ・車が入ると、大型ゴミが増えるため、車を入れない工夫が必要
- ・子どもが遊べる原っぱが残っていない

①どんな遊びを誰としたいか

- ・子どもが創意工夫しながら遊べる原っぱ
- ・遊具を置かない場所
- ・環境学習の場として使う

凡例

- ・ ワークショップでの意見
- アンケートの記述

- ・ 環境博物館
- ・ ふれあい牧場
- ・ 馬に乗れる場の提供（印西牧が昔あったことから）
- ・ 里山自然墓苑（自然霊園）
- 自然散策、野鳥観察、虫捕り
- 野山を思い切り歩き楽しむ〔大人、子供〕
- ネーチャーゲーム、ウォークラリー、水遊び〔子供〕
- キャンプ

②どんな施設が必要か



- ・ 駐車場
- ・ トイレ
- ・ 柵を取りはずしてほしい
- ・ 木道の確保：湧水の保全と土壌保護
- ・ 観察路、ウォーキングロードの確保（歩く場所を制限する）
- エコロジートイレ
- あずま屋、ベンチ

③里山を持続させるためには、私たちにできること

- ・ ゴミ拾いや、草刈。できることからしていく
- ・ 歩く道の整備、環境維持
- ・ 谷田のすばらしさを一般市民に知ってもらうため、写真コンテストはどうか
- ・ 維持管理費を捻出するための炭焼きやバーベキュー（薪の利用）
- 木を切ったり、木を植えたりする
- ウォーキングマップの作成、ガイド
- 家が遠いので、時折観察させて欲しい

《里山を守る》(34名参加 回収18件)

① 今日見ていただいたところでよかった場所を一つ書いてください。

- ・ 沢山の泉 18件のうち11件
- ・ 全体のコースが良かった

・落葉を踏みしめての散歩は気持ちがよかったです。植物に対する知識がないと興味も半減する。シロカシ、アカカシ、ハリギリ、シロダモ、イヌザクラ等教えてもらい、大変興味深く散策できました。

・野原 2件

・全てよかったです。森林浴を久しぶりにできたのでうれしかったです。よい刺激になりました。特に開けたはらっぱがよかったです。キレイでした。

・梨園へと続く手前の小道の景色がとても良かった。

・日の光が深く差して来ない場所（森の深い所）が個人的に好なので良かったなあと思いました。

・散歩によい とくに落葉みちはヒザ・足くびに負担をかけなくて最適

② そこはどういう点がよかったのでしょうか。

・両側が斜面林に囲まれていて森の中の泉という感じがした。夏の様子もみてみたいと思った。

・水がすんでおり気持ちよかったです。説明にあった様に水量が少なく残念でした。

・自然との共生勉強させられました。先進国（アメリカ、ヨーロッパ）の2の舞にならないようにしたい。

・船橋カントリーの跡地広場はボランティア等で、植林（苗木）花木等を植えて保護しないと荒れるし、ゴミ捨て場になりかねないと思います。保全、保護のためのポスター等の掲示板も必要。歩くためのルートづくりも必要。

・自然そのままが残っている里山。そこに流れるわき水や水路を大事にしていきたい。

・この辺りの住民ではないのですが、コンクリートのすぐ近くにこんな広い森林があるのはうらやましかったです。私の家の側にも林は多いですが、今日以上にごみが多いです。自分たちの意識の低さを感じました。良い意味で、人の手が入っていない所がとても良いと思います。さくで守るのも保全ですがある意味で「放置」というのも保全なのではないでしょうか。

・透かすと白く見えるのに表は黄色の葉がとても印象的だった。ハリギリという初めて見る木に出会えた。トゲが生えていておもしろかったし、新鮮だった。

・落ち葉のやわらかいクッションを踏んで遊べる楽しさ、静かな木もれ日の美しさなど、はらっぱの明るい雰囲気とは少し違った いやし の空間として素晴らしいな、と思いました。特にこんな開発が少しずつ進んでいる場所の中でこういった自然があることはとても嬉しいことだと思いました。

・消去法。里山と暮らすわけでもなく里山と遊ぶわけでもないの。

・泉の水が枯れない事を願って。

・自然が残されている。

- ・沢山の泉気に入りました。山林の自然を残したい。行政への働きかけに協力したい。
- ・ぜひとも守りたい里山です。
- ・とても静かな別世界 水はきれいで空気がおいしい
- ・今日案内してもらった所をそのまま保存し市民が親しめる場（自然公園）であって欲しい（にして欲しい）
- ・かつては谷津のいたるところにあった水源がニュータウン開発で稀少になった。

③ この自然を守っていくために、ボランティアで出来ることがありましたら、ご提案、ご意見などお書きください。

- ・私は野田市内、流山市で自然保護活動を行っています。会報にも記事をのせていますので、観察会、会報などを通じて白井にもこういうすばらしい自然があるとPRしていきたいと思います。
- ・私が手伝えるのはゴミ拾いくらいですが機会があったらやりたいです。



- ・多くの人々にこの自然を知ってもらおう
- ・春にまた来たいと思います。説明よかったです。お世話になりました
- ・「沢山の泉」周辺は保全すべきと感じました。

- ・行政区域を超えて、市民にもっと広く伝えていってはいかがか。
- ・まず家庭からでる排水に気をつけたいとおもいます。農薬とかせっけん等化学物質をなるべく少なくしたいし たくさんの人に広げられたら良いとおもいます。
- ・さくで囲んだりというボランティアは個人的には抵抗があります。今日のお話で「ごみを拾うことは保全ではない」とありましたが、ボランティアでごみを拾うこともありかと思えます。少し今日気になりました。やはりきれいな所にはごみを捨てないと思えますし・・・今日は観察の目的ではあったけど、ごみを拾うっていうのもこのミーティングの活動にしても悪くはないのではないのでしょうか？あとは植物調査とかしたいなと思いました。
- ・ゴミ回収。思いもよらない場所にゴミが落ちていて、せつかくの景観がだいなしになる。ルートを決めてそこに生える植物名を覚えて解説できたり、遊びなどを考えることができれば楽しいかも。
- ・こういった会を「どこどこでいつ開きます」という形でやるだけでなく、子供が相

手であればこちら側から学校等に訪問していったり、大人対象であっても思いきって企業内でそういったセミナーをやらせてもらえないか働きかけてみたり、ほっといたら関心をもってもらえなそうな相手にも積極的に保全の大切さを訴えていけたらな、と思います。

- ・企業庁との話し合いが必要。せっかくの里山、とりわけ問題なのは「五つの原っぱ」ではないか。対策はむずかしいと思われるが、例えば原っぱの中に植樹を施し実質的にゴルフができないようにできればよいと思うが・・・。

- ・ゴミが森の美しさをがっかりさせています。ゴミをすてられない方法はないのでしょうか・森に入る入口、出口を作って小道を歩き良いように考える。

(自然のままを大切にしながら)

- ・折にふれてP紹介下さい。

- ・まわりのゴミ拾いくらいなら出来そうです。いつまでも保全したい財産です。

- ・清掃に参加。知らせる。

- ・里山入口付近に投棄されたゴミの集拾。水源から下流へ歩けるようにし、流水内の枯枝、落葉等の清掃



その他

- ・なんとか自然公園として残してもらいたい。

- ・「今」のままを保ってほしいです。今日初めて歩きましたが、土がまだやわらかくて道も少ししかできていない所が本当に良いと思いました。ただハイキングコースや森林浴を目的とした観光客感覚の人に、土を固められたり木を折られたりしてしまうのはやはり意味のないものと思ってしまう。追求する程矛盾が出てきてしまうのは悔しい所です。植物調査をする際はぜひやりたいと思います。お話にもありましたが観察だけでは矛盾が生じっぱなしだと思います。調査をして何が減っているのかなが入ってきたとか「知る」ことも大切だと思います。今日は本当にありがとうございました。良い刺激になりました。保全が続いていくことを願っています。

- ・幅広い年齢層の方々と出会えた事で知らない知識をたくさん与えていただきました。私はこの地域の住民ではないのですが、住宅のすぐ側にこのような雑木林があることがとてもうらやましかった。知識の共有が出来てとても良かった。ありがとうございました。

- ・谷田のニュータウン用地を自然公園にできないか。URや市の開発計画を聞きたい。

以下はおしゃべり会にでた意見

- ・沢山の泉には以前来たことがある。今回案内して戴いたがここは公開してほしくない場所である。多くの人に知れると荒らされる。
- ・野田市三ヶ尾の保全運動に関わったことがある。倒産会社所有の谷津田等を市民団体の要望により野田市が主体となって保全ができた。斜面林条例を作りサシバやオオタカを保護している。農業法人野田ファームによる米作りも開始した。この地区を保全するには観察会等を行い市民との連携をしていく必要がある。
- ・沢山の泉の水量は、桜台地区の雨水浸透水が水源の比重の多くを占めていると考えられ、今後も桜台にマンションや住宅が増えると地下浸透水が減り水量がさらに少なくなると考えられる。地下浸透水の減少を食い止められないか。
- ・非常に多くのドングリが落ちていて、もったいない。ドングリの再利用ができないか。



以上